

薬剤部 DI ニュース

慢性便秘症に使用可能な国内初のポリエチレングリコール製剤（モビコール）

2018年9月、慢性便秘症治療薬モビコール配合内用剤の製造販売が承認された。本薬は、浸透圧性下剤ポリエチレングリコール（PEG）に塩化ナトリウムなどの電解質を含有した製剤であり、小児（2歳以上）及び成人に使用可能な慢性便秘症治療薬となっている。PEGのマクロゴール4000が、浸透圧によって腸管内への水分貯留を促進し、便中水分量と便容積を増加させることで便秘症状を改善する。さらに、配合された電解質は腸内の電解質バランスを維持し、便中の浸透圧を適正なレベルに保持する。



用法用量は「初回投与量として1日1回1包（2～7歳未満の小児）、1日1回2包（7～12歳未満の小児、成人及び12歳以上の小児）を水で溶解して経口投与。以降、症状に応じて適宜増減し、1日1～3回。最大投与量は1日量4包（1回量2包）まで（2～7歳未満の小児、7～12歳未満の小児）、1日量6包（1回量4包）まで（成人及び12歳以上の小児）。ただし、いずれの年齢においても増量は2日以上の間隔をあけて行い、増量幅は1日量1包まで（2～7歳未満の小児、7～12歳未満の小児）、1日量2包まで（成人及び12歳以上の小児）」となっている。

便秘に対する治療薬としては、成人に対してピコスルファートナトリウムやセンノシドなどの大腸刺激性下剤や、酸化マグネシウム（マグミット他）の塩類下剤などの浸透圧性下剤が長年使用されてきた。近年では、クロライドチャンネルアクティベーターであるルビプロストン（アミティーザ）や、グアニル酸シクラーゼC受容体アゴニストの上皮機能変容薬リナクロチド（リンゼス）、さらに胆汁酸トランスポーター阻害薬エロピキシバット（グーフイス）など新しい機序の薬剤が使用可能となり、格段に選択肢が増えてきた。

国内のガイドラインでは、小児に対しては浸透圧性下剤から治療を開始することが原則とされており、十分な効果が得られない場合には大腸刺激性下剤を併用することとなっている。

欧米のガイドラインで慢性便秘症治療薬として推奨されているPEG製剤は、日本では腸管洗浄剤（モビプレップ他）としては臨床使用されているものの、慢性便秘症の適応を有する薬剤がないのが現状であった。こうした背景から、日本小児栄養消化器肝臓学会から早期開発の要望書が提出されていた。「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において医療上の必要性が高い薬剤として評価され、その後開発が進んだことで今回の上市に至った。

薬剤使用に際しては、17.2%に副作用が認められている。主なものとしては下痢、腹痛（各3.6%）があり、重大な副作用としてショック、アナフィラキシーを起こす可能性があることに注意する必要がある。

（裏面へ続く）

モビコールの飲み方



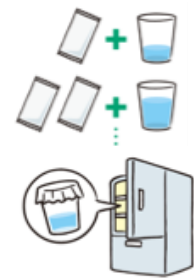
- ・モビコールは、水に溶かして服用します。
- ・便秘の状態に応じて服用量を適宜増減します。

1日あたりの服用量の目安

	2～6歳	7～11歳	12歳以上
飲み始め	1回 1包 / 日	1回 2包 / 日	1回 2包 / 日
もっとも多い場合	4包 / 日 ※1回あたりに服用する量は2包まで ※1日1～3回とし、3包以上を飲む場合、例として、朝1包、夕2包などと、服用回数を2回以上に分けて服用		6包 / 日 ※1回あたりに服用する量は4包まで ※1日1～3回とし、1日6包の場合、例として、朝・昼・夕各2包、または朝2包、夕4包などと、服用回数を2回以上に分けて服用

モビコールの溶かし方

- ・モビコール®は、1包あたりコップ 1/3 杯程度 (約 60mL) の水に溶かします。なお、2包の場合は約 120mL、3包の場合は約 180mL に溶かしてください。
- ・溶かした後すぐに服用できない場合は、ラップなどでフタをして、冷蔵庫で保管してください
- ・溶かした後、1度にすべて服用しきれない場合は数回に分けて服用してもかまいません。その場合は、1日あたりの服用量をその日中に飲みきるようにしてください。



味などが気になって服用しにくい場合は、水以外の飲料 (冷たい飲料やりんごジュースなど) に溶かして服用することも可能です。



モビコールの服用量調節 (目安)

- ・モビコールは、毎日の便の状態を観察しながら服用量を適宜増減していきます。
- ・服用量の調節は、便の硬さや排便回数、残便感、腹痛など、患者の状態をよく観察しながら行います。



参考 1日あたりの服用量調節の目安

■便の状態と調節方法は参考とし、実際の服用量の増減については、医師や薬剤師にご相談ください。

	① かたく コロコロ している便	② 短く コロコロ便が くっついた便	③ 表面が ひびわって いる便	④ なめらかな バナナ状の便	⑤ やわらかく 半固形状の便	⑥ どろどろした かゆ状の便	⑦ 水のような便
	便秘傾向 ←						→ 下痢傾向
2 ～ 11 歳	次の日、1包/日増やす (連続して増やすときは1日おとし、 2日連続での増量は行わない)		変更なし <small>*排便時の痛みや 肛門出血がある 場合は1包増やす</small>		1包/日 減らす	2包/日減らす または休薬	
12 歳 以上	次の日、2包/日増やす (連続して増やすときは1日おとし、 2日連続での増量は行わない)			変更なし		2包/日減らす または休薬	

・基本的に、医師へ確認した上で服用量を増減するようにしてください。
・腹痛や下痢などの症状があらわれた場合には減量や休薬・中止を考慮する場合がありますので、医師、薬剤師にご相談ください。

服用上の注意点

- ・モビコールは水に溶かして服用しますが、この時の水はほとんどが体に吸収されずに便となります。したがって、モビコールを溶かす水以外に適切な量の水分補給をするようご指導ください。
- ・お薬の減量や休薬のタイミングが早すぎると再び便秘になってしまうことがあります。

お薬の休薬などについては、規則的な排便がある場合でも医師に相談するよう、ご指導ください。

・皮ふのかゆみ、じんま疹、のどのかゆみ、息苦しさ、どうき、などの症状に注意し、症状があらわれた場合には、直ちに医師、薬剤師へ連絡するようにお伝えください。

参照：EA ファーマ、モビコール配合内用剤製品情報 <https://www.eapharma.co.jp/medicalexpert/product/movicol/productinfo/howtodrink.html>

日経メディカル, <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/series/drug/update/201811/558461.html> (2019.2/21 閲覧)

(薬剤部 長ヶ原)